



# 星

XIX

XVIII

XVII

## 編輯の後に

八月の暑い盛りは、山に登る者も、海に遊ぶ者も、はた家に残る者も、皆一齊に星に親しむべき時である。七夕のロマンスを想ひ出すもよし、天の河のモダン智識を振りまはすのもよし、流星の観測や、變光星の観測を楽しむのもよい。殊に今年の夏は土星の美景を見落してはならない。土星の世界は攝氏 $0^{\circ}$ 下 $150^{\circ}$ 度の極寒であるといはれてゐるから、考へただけでも地上世界の汗は退却してう。

夏の星座は宵天にのみ見てはならぬ。是非、朝早く起きて、二度や三度は、夜あけ前の東天に現はれる星座を見るべし。そこには「馭者」「オリオン」「牛」「双子」「大犬」「小犬」などの、冬の星々が、最も美しい装ひをこらして現はれてゐる。之れも亦、星を知る同志にとつては、氷の山の百千を積んだよりも涼氣を感じるものである。

### 目次

ロマ法廳王ヴチカン天文臺の話(1), シブスマン彗星後日物語り(4), 蕃人に由つて創作された祭事曆(10), アインシュタイン博士の近況(16), 八月の天象(19), 編輯室より(24),

Contents: Specola Vaticana (Vatican Observatory) of Rome (1); Aftermath of the Comet Schwassmann-Wachmann, 1930d (4); Festival Calendar invented by a Natural Tribe of Formosa (10); Dr. Einstein's Latest Work(16); Heavens of August, 1930 (19); Editorial Notes (24)

星 第六號

昭和五年七月二十四日印刷  
昭和五年七月二十五日發行

天界 附録

編輯兼發行者  
印刷所  
印刷者

京都帝國大學内 天文同好會 (代表者 山本一清)  
京都市二條通鉄屋町西入 辻本英進堂  
京都市二條通鉄屋町西入 辻本庄一

